

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1359
施設名	小石川ちとせ保育園
施設所在地	東京都文京区小石川2-4-12
法人名	社会福祉法人 ちとせ交友会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び～身体の部位はどんな役目？～

<テーマの設定理由>

「身体の図鑑」から身体の不思議について年長児から発信があり、小石川ちとせ保育園は園庭がなく戸外遊びや屋上を使って体を動かしてはいるが、子どもたちから身体の役割に興味を持ったことから、「運動遊び」から身体の仕組み・発達について各年齢で深めてみることにした。

2. 活動スケジュール

0歳児…ふれあいあそびを通してソフトマット、巧技台遊びにつなげる（はしご・滑り台・マット遊び）

1.2歳児…動物真似ごっこから部位を伸ばしてみたり、ソフトマットや巧技台を使い、遊びを広げた。（腕や脚の使い方）

3.4.5歳児…図鑑を通して身体の仕組みについて話し合ったり、巧技台を使ってバランスと取るために必要なところを意識しながら取り組む。定期的に戸外や室内活動において運動遊びを取り入れた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【用意した道具】・マット・ソフトマット・巧技台・鉄棒・縄跳び・フラフープ・ボール

【環境の設定】屋上や保育室（2部屋を繋げてスペースを広くした）ホールで動きやすい環境や人数制限をしながら行う。また、園外（公園やスポーツ広場）ではボール蹴り・投げを楽しむ。子どもの運動遊びや体の動きについて探求したことをディスカッションした。

園庭が買う、ボールを使った運動遊びや思い切り走れる環境は少ないが、公園を使用できる時間帯を工夫してみた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

屋上や保育室にてマットや巧技台を設定した。年長児は活動によって身体の中のどの部分を使うかを意識しながら行った。運動遊びを通じて感覚的・知覚的な気づきを得ていく。・可動域と関節の気づき（関節の構造の理解）・筋力と抵抗の気づき（力の加減）・重心とバランスの気づき（中心感覚）・身体の境界線の気づき（空間と自己サイズの照合）。それぞれ遊びを通じて【腕・肩回り】支える・引っ張る・投げるなど支持力と懸垂力を養う。【脚・足指】瞬発力と踏ん張りなどバランス能力【体幹・背筋筋】姿勢の保持と連動について職員同士でも子どもたちの成長と運動遊びの結びつきについて話し合った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・体操を楽しむ中で伸びる・曲げる・跳ねるの動きを楽しむ。乳児は動物体操から導入しカンガルー跳びなど動かしている部位を伝えながら擬音語を交えて行うと子どもたちもなりきりながら楽しい雰囲気の中で体を動かしていた。体操や平均台を使い「おとつと」「ぐらぐら」などバランス感覚を意識しながら真剣なまなざしを見せていた。子どもたちが部位への探求を深めるために、「今、腕がムキムキになってきてるね」「おなかに力を入れるとピタッと止まれるよ」など動かしている部位を具体的に伝える工夫をした。筋肉や体幹への意識したことを子ども同士でディスカッションして「ここが伸びていた」活動の中で「がんばれー」など応援する姿などが見られた。活動をする中で苦手意識を持っていた子も楽しめるようになり、運動遊びが広がっていったのを感じた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちから「身体の不思議」についての声が上がったときに、どのように探求活動に繋げられるか保育もチャレンジしてみよう！と巧技台の段差や設定などを反し合ったり、子どもたちの表情や気づきの共有をする中で、動かしている部位を具体的な言葉にして伝えてあげること、子ども自身の感覚と知識が結びつき、より深い身体への探求へとつながって行くことに気づいた。今回活動で使った「マット」「梯子」「平均台」「滑り台」はこれらのすべての部位を網羅できる素晴らしいセットアップだと感じた。